

## 「おじいさんとの出会い」

私の子どもは物心つく頃から人見知りで、家族にはあいさつができるのに、幼稚園の友だちや近所の人と出会った時などにはできませんでした。「あいさつはいつでももしないといけないよ。」と話しても、子どもが積極的にあいさつをするようにはなりませんでした。

子どもが小学一年生の頃、子どもと出かけたある日曜日の朝に、散歩中のおじいさんと出会いました。その方は杖をついて私たちの前をゆっくりと歩いていました。そのおじいさんが少し立ち止まりこちらを向いた時、私は何気なく「おはようございます。」とあいさつしました。すると、「ごつとごつと」「おはようございます。行つてらっしゃい。」と返してくれました。「おはようございます。」の後の「行つてらっしゃい。」の言葉がとても新鮮に感じられ、じわつと心が温かくなるのを感じました。子どもも、「おじいさん、行つてらっしゃい」「やて。」とうれしそうな顔をして言いました。私は、「何か感じてくれたのかな？」と思いました。

その後も、私と子どもが出かける時に、そのおじいさんと何度か出会うことがありました。その度に、「気を付けて。」今日は天気が良いねえ。」などと声をかけてくれました。いつしか子どももすっかり慣れて、出会った時は自分からあいさつするようになっていました。



さらにその後、「外で遊んでたらあのおじいさんに出会ったよ。」と言ったので、「何かしゃべったの?」と聞くと、「こんにちは。いつもあいさつしてくれてありがとう。」「って言ったよ。」という言葉が返ってきました。近所の方からも「最近元気にあいさつしてくれて、うれしいわあ。」と言われるようになりました。あれだけ人見知りだった子どもの変化に驚きました。

私が子どものころは両親が共働きだったため、おばあちゃん子で育ちました。朝、学校へ向かって家を出る時「行ってきます。」「と言つと、いつも「行つてらっしゃい。お早うお帰り。」と声をかけてくれました。その言葉には「気をつけて元気に帰ってくるんだよ。」という意味が込められていたように思います。家を出てからも地域の人たちから「行つてらっしゃい。」「お帰りのさい。」など、気楽に声をかけてもらっていたのを思い出します。子どももきつと近所で出会うおじいさんから、言葉だけではない温もりを感じていたのでしょう。

地域には高齢の方をはじめ、いろいろな立場の方が暮らしています。そういった人たちとの関わりの中で、子どもは育っていくのだと今回のできごとで感じました。大人も同じだと思います。人との関わりが希薄になってきたと言われる昨今ですが、これからも身近な暮らしの中で小さなつながりを作っていけたらと思っています。